

令和3年度 長崎南高等学校 学校評価 総括評価表					
○ 教育方針	①真理と正義を求め、一意学問に精進する態度を養う。 ②すぐれた知性と実践力を養い、積極・創造の気概を振起する。 ③正しい判断力を育て、自主・自律の生活態度を確立する。 ④部活動を奨励し、明るく、たくましい心身を培う。 ⑤豊かな情操と強い連帯感を養い、奉仕する心を育てる。		《評価の基準》 4：十分達成できている (目標の8割以上が達成できている)		
○ 努力目標	①学校運営の充実 ②生徒指導等の充実 ③教科指導等の充実 ④保健・環境美化等の充実		3：おおむね達成できている (目標の6割以上が達成できている)		
○ 今年度の重点課題	①教科指導の充実 ②生徒指導の充実 ③進路指導の充実 ④部活動等の充実 ⑤心の教育の充実 ⑥スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の充実 ⑦南高の新たな時代に向けた教育活動の充実		2：どちらかという達成できていない (目標の3割以上が達成できている)		
			1：ほとんど達成できていない (目標の1割以下しか達成できていない)		
			評価…上段R3年度、中段R2年度、下段R1年度		
評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価	成果と課題
1 学校運営	全職員が共通の理念に立った学校運営を行うことによる教育成果の評価				
(1)重点課題	重点課題の設定とその具現化	本校の実態に即した年度の重点課題を設定し、職員・生徒・保護者の理解に基づく教育活動を展開する。	①今日の教育課題と生徒の実態を踏まえた重点課題を設定する。 ②重点課題の具現化方策を校務分掌及び学年経営方針に盛り込み実践する。 ③生徒・保護者・地域等に教育方針や重点課題等を説明し理解を得る機会を設定する。	3.4 3.5 3.4 3.4 3.4 3.1 3.2 3.2	①、②についてはおおむね高い評価を得ている。 ③についてはコロナ禍において直接説明する機会が減少している影響が否めない。ICTの活用等、理解を深めていただくための努力を重ねていきたいと考えている。
(2)学年経営	学年目標の具現化	1 学年 「心に緑を ひとに思いやりを」を学年スローガンに ①豊かな感性を育む指導を充実させる ②自律した生活習慣を確立させる ③進路指導を充実させる 2 学年 「自己研鑽」を学年スローガンに ①豊かな感性を育む指導の充実 ②自律した生活習慣の確立 ③進路指導の充実 3 学年 「深山の桜のように ～志と怒の心を育む～」を学年スローガンに ① 豊かな感性を育む指導の充実 ② 生徒指導および生徒支援の充実 ③ 自己実現に向けて最後まで諦めない進路指導の充実	①授業・部活動・学級活動・学校行事をとおして人間性の陶冶を図る。 ②面談をとおして生徒理解を図り、相互の信頼関係の下で指導及び支援を図る。 ③進路学習やSSH活動、体験活動をとおして視野を広げ、自己の進路を主体的に開拓していく姿勢を育てる。 ①部活動や行事、挨拶・掃除、体験活動を通して豊かな情操と思いやりの心を育てる。 ②面談・声かけ・観察で生徒理解を図り、個に応じて基本的な生活や学習習慣、社会性を身に付けさせる。 ③グローバルな視点(SDGs)も取り入れてSSH活動や時事意見文、修学旅行と進路学習を連動させ、視野を広げ、進路意識を高めさせる。 ①部活動・学校行事・学習・掃除・挨拶による人間力の陶冶 ②教員と生徒の信頼関係を築いた上で、先を見て行動する姿勢と社会に通用する生徒の育成 ③自己肯定感を高める指導、面談を通して、生徒自らが進路希望を主体的に実現しようとする進路指導	3.5 3.5 3.5 3.6 3.5 3.6 3.2 3.1 3.3	コロナ禍において体調面や人間関係に悩む生徒も見られたが、個別の声かけや面談などを通して、基本的な生活習慣の定着に努めることができた。今後は、継続的な進路研究を通して、自己の進路について主体的に開拓していく姿勢を有する生徒の育成に努めていきたい。 ・コロナ禍であったが、修学旅行を実施できたのは良かった。 ・挨拶・掃除に関してはもっと徹底させていきたい。 ・進路意識の低い生徒へより積極的に働きかけていきたい。 コロナ禍で制限の多い中、多くの配慮と協力の下、高校最後の行事や受験勉強を通して、全体的には、仲間と共に辛抱強く努力し、心身の成長を遂げてきている。また最初の18歳成人対象学年として社会性の育成も念頭に置いてきたが成果はまだ見えない。

2 教育活動	教育全般における計画的・組織的な教育成果の評価
--------	-------------------------

(1)教育課程の編成	創意工夫を生かした教育課程の編成と実施	本校の実態に即した教育課程の編成に努める。	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学力向上と進路希望の実現に対応できる教育課程を編成する。	3.3 3.2 3.3	SSHやキャリア特進コースの特徴を生かした教育課程を編成する。
(2)学習・進路指導の編成					
①教科・進路指導		国語科 学習指導の充実と国語力の向上に努める。	①授業担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。 ②計画的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。 ③学力向上に向けて数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。	3.3 3.3 3.2	タブレット端末の本格的な運用が始まり、国語科としての活用を模索、公開授業を通じて共通理解を図った。今後も学力向上に向けて互いの取組の情報交換を進めていく。
		地歴・公民科 個々の生徒に対応した学習指導の充実と学力向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質を高めるように工夫する。 ②計画的に生徒の能力に応じた適切な課題を提供し、確実に仕上げるまで指導する。 ③主要な模擬試験等に数値目標を掲げ、目標達成にむけて教科をあげて取り組む。	3.2 2.8 2.8	タブレットの効果的な使用の用法を研究する。新課程の公共や歴史総の授業方法について研究する。
		数学科 学習指導の充実と授業力の向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、授業の質を高める工夫を行う。 ②計画的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。 ③主要な模試について数値目標を掲げ実現に向けて組織的に取り組む。	3.7 3.2 3.1	到達目標を見据え、生徒の現状に合った授業展開や計画的な課題作成等、細やかな改善を行う必要がある。
		理科 学習指導の充実と進路実績の向上に努める。	①教科担当者間の連携を密にし、ICTを活用するなど授業の質を高める工夫を行う。 ②計画的に課題を与え、処理は迅速にし、確実に仕上げるまで指導する。 ③主要な模試等について数値目標を掲げ、実現に向け組織的に取り組む。 ④生徒の実情にあったストレⅠ、Ⅱ、Ⅲや課題研究と総合環境科学の指導を通し、生徒の科学的見地を高める。	3.9 3.4 3.5 3.5	①④ 一人一台端末の使用に伴い、総合環境科学を中心に、板書のみならず実験・観察・分析など、科学的能力・見地の向上に向けて更なる活用を進めたい。 ④ 総合環境科学について教科として内容深化の検討の場を増やす。
		英語科 学習指導の充実と実践的コミュニケーション能力の育成を図る。	①教科担当者間の連携を密にし、ICTを活用するなど、授業の質を高める工夫を行う。 ②計画的かつ継続的に課題を与え、迅速に処理し、確実に仕上げるまで指導する。 ③主要な対外テストについて数値目標を掲げ、その達成に向けて授業担当者間の協働により取り組む。 ④コミュニケーション英語、英語表現の授業およびSSHトレーニングにおいて、実践的コミュニケーション能力を育成する。	3.3 3.7 3.2 3.3	④「実践的コミュニケーション能力の育成」に関しては、コロナ禍の制限やAL Tの不在、MSTの停止など多くの制限がかかったが、ICTを活用し代替の活動を探るなど、次年度以降の教科指導を考えるきっかけともなった。次年度使用するアプリについては、是非今年度の早いうちに決定していただきたい。
		保健体育科 学習指導の充実によってバランスのとれた体力づくりを目指す。	①教科担当者間の連携を密にし授業の質や緊張感を高める工夫を行う。 ②主運動前に補強運動・7分間走を実施し、体力の向上を図る。 ③ 受験（体育系）指導の充実。	3.8 3.7 3.0	新型コロナの影響で、体力の低下による意欲の低下が懸念されたが、生徒は積極的に取り組み、活気ある授業ができた。
		芸術科 学習指導の充実と感性豊かな人間性の育成に努める。	①授業に積極的に取り組ませ専門的に一定程度以上の能力を持たせる。 ②決められた期間内に課題(歌唱または器楽の実技試験・鑑賞の記録・作品の完成)ができるようにする。	3.0 3.0	コロナ禍であっても、モチベーションを下げることなく活動することができた。
		家庭科 学習指導の充実と実生活への活用を努める。	①地域に根ざした実践的・体験的学習を取り入れることにより、家庭・家族と社会との関わりを理解させ、授業の質を高める。	3.0	コロナにより、ふれあい体感事業を中止し、指導内容を変更した。タブレット導

			②実生活に即した教材を使い生活に必要な知識と技術を習得させる。 ③実習を伴う学習では、事前に目標を設定させ、目的意識を持たせる。実習後、レポートを書かせ、次の実習に生かせるようにする。 ④実技試験を多く取り入れ、技術習得の意欲を高める。 ⑤長期休業中に生活に関する課題を出し、各自の家庭生活や社会生活に関心を持たせる。	3.0 4.0 3.0 4.0	入に際して、夏休みの課題提出から使用している。実習では、動画を作って生徒がダウンロードできるようにした。被服小物製作では各自が確認しながら製作し時間が短縮できた。調理は一人調理とし、動画で予習ができるようにした。冬休みは調理実習を取り上げ、データを提出する形式にした。
		情報科 情報に関する知識の習得と、情報技術・情報モラルの定着に努める	① 座学と実習を効果的に編成する ②知識の習得(デジタルの知識・アルゴリズムの理解習得・問題のモデル化とシミュレーションの学習、情報モラルマナーの理解定着) ③技能の習得(コンピュータの基本的操作方法の学習)	3.0 3.0 3.0	1人に1台タブレットPCが配付されたため、教室移動や起動の時間を削減し、授業時間に充てることができた。
	②特別活動	生徒活動の充実	生徒の自主的・自発的な活動の支援に努める	生徒会活動や、文化祭・体育祭など諸行事で、生徒が自主的に活動し、リーダーとなる人材を育成する 3.5 3.3 3.5	徐々に自主的に動ける生徒が増えてきている。
(3)SSH事業の推進	SSH事業の円滑な発進と事業内容の充実	①SSH事業の円滑な運営 ②研究開発の推進 ③研究成果の普及活動の充実	①計画的な運営を行い、SSH事業を円滑に進める ②SSH事業2期目の目的に照らしたカリキュラムの研究開発を推進する ③SSHの活動や成果を学校のHPを介して保護者や中学校への情報発信に努める	3.4 3.5 3.5 3.4 3.5 3.5 3.4 3.5 3.3	タブレットの導入に伴い探究学習の取組も効率化し、より深い学びにつながってきた。新型コロナによる制限はあるが、学外との連携した取組の機会も増えた。今後さらに主体的な課題研究の深化、科学部を主体とした活動の高まりを目指したい。
(4)生徒指導	品位ある南高生の育成と安全な教育環境の充実	①元気のよいあいさつとその場にふさわしい言動ができる ②整理整頓ができる ③身なりが整っている ④時間を守ることができる ⑤思いやりの心とたくましい心を身につけている	①・登校時の挨拶指導の実施 ・学校生活における基本マナーの周知徹底（掲示） ②・職員監督の下、掃除の徹底 ・机・ロッカーの整頓 ・貴重品の管理 ③・違反についてはその場で指導 ・容儀検査の実施と事後指導徹底 ④・授業開始2分前着席と集会時の5分前集合 ・下校時刻の遵守徹底 ⑤・バスマナー指導 ・生徒理解に努め、自己有用感を高める指導を心がけ、人と関わる力の土台をつくる（生徒指導研修会の実施等） ・携帯端末使用ルールの遵守徹底（全般） ・毎月生徒指導便りを発行し、保護者と情報の共有化を図る ・生徒会、生徒支援部との連携	3.2 3.3 3.0 2.9 3.1 2.9 3.1 3.1 3.0 2.8 2.9 2.7 3.0 3.1 3.2 3.3 3.4 3.4	基本マナーについてはその都度先生方からよく指導して頂いている。掃除監督についている時は、生徒たちがきちんと掃除に取り組んでいる。容儀の指導は学年ごとできちんと行ってもらっており、ありがたい。授業の2分前着席も先生方のお陰で大分できてきた。下校時刻の徹底は顧問からも徹底するような働きかけをお願いしたい。バスマナーに関する苦情は少し減った。コロナで静かにせざるを得ないからか。時代に合った校則の見直しをする必要があるが、早急にしすぎるのはどうかというご意見も学校外でも耳にする。
(5)健康・安全指導	健康や安全に対する意識や態度の育成	本校の教育方針や重点項目にそって、健康・安全指導の充実に努める。	①自律的な生活習慣を確立させ、健康保持・増進を図らせる。 ②教育活動時の安全保持に努める。また、安全意識の涵養を図り、生命尊重の精神を高める。	3.2 3.0 3.1 3.4 3.3 3.3	コロナ禍で、出席停止が多数出る中、体調管理を訴える言葉ひとつにも気を付けなければならなかった。来年度以降正常化することを望む。
(6)心の教育	他者を思いやる心や命を大切に	教育活動全体の中で心の教育の充実に努める。	①支援部及び学年団や担任、保健室間の連携をさらに密にする。	3.8 3.6	今年度はSCの利用に制限がかかったが、SSWの活

	する態度の育成		②スクールカウンセラーや外部機関等を積極的に活用し、予防に重点を置いた教育相談体制の充実を図る。	3.5 3.7 3.5 3.5	用により、解決できた事案があった。対応数が増えているため、兼務でも相談室対応を増員できないか。
(7)部活動	部活動の活性化	1年次の全員部活制を生かし、個々の生徒の活動の継続に努める。	部活動の練習環境を充実させるとともに、練習時間と学校下校時間を遵守させ、「学習と部活動を両立」させる。	3.0 3.1 3.2	下校時間の遵守は、今後もし言い続けられないといけない。
3 教育環境 学校の置かれている教育環境に関わる教育成果の評価					
(1)施設・設備の管理	施設・設備の適切な管理に努め、維持補修、改修工事を計画的に実施する。	施設・設備の維持・補修と安全確保に努める。	①継続的な安全点検を実施し、危険防止に努める。 ②施設の維持補修及び改修工事を計画的に実施する。	3.3 3.4 3.4 3.4 3.3	厳しい予算の中であるが、引き続き、安全・安心な施設の維持に努めていきたい。
(2)情報化推進 *情報担当職員	教育活動のＩＴ化	ＩＴ関連の施設・設備の充実と教育活動分野への活用促進に努める。	①・情報機器等の充実した整備を行う ・校内LANの生徒への活用を推進する ②校務処理の効率化と職員のICT活用能力の向上に努める。	3.5 3.1 2.9 3.4 3.2 3.0	生徒・教員に一人一台端末が導入されたことで、Teamsやロイロノートの活用が進んだ。
4 開かれた学校 関連機関や団体との連携における教育成果の評価					
(1)保護者との連携	ＰＴＡ活動の充実	ＰＴＡ総会の盛会とＰＴＡ活動の活性化に努め、学校と家庭間の連絡を密にする。	①家庭と学校との緊密な連携を保つための情報発信をこまめに行う。 ②ＰＴＡ総会の内容の工夫を行うなどで、出席率を向上させる。	3.3 3.3 3.2 3.1 3.2 3.2	総会・常任委員会は実施できた（ただし、総会は書面開催）が、ＰＴＡ活動のほとんどが中止された。HPやメールによる情報発信はこまめに行った。
(2)地域や関係機関との連携	外部講師等の活用	外部講師の招聘による教育活動	同窓会や民間機関等の人材を有効に活用して、教育効果を高める。	3.3 3.2 3.2	（図研）同窓会のご協力のもと、60周年記念事業や崎陽塾で講演会を行い生徒の知見を広めることができた。
5 生徒の教育成果 校訓の具現化（知育・徳育・体育の調和のとれた教育活動全般の評価）					
(1)豊かな人間性	・理想は高く、気魄と情熱に燃える生徒の育成 ・親和と友愛に充ち、礼節を重んじる生徒の育成	学校への帰属意識を養うと共に、他者を思いやる心や奉仕する心を育てる。	①クラスや生徒会活動で、学校行事やボランティア活動に積極的に取り組ませる。 ②生徒会専門委員会や執行部の活動として、あいさつ運動やバスマナー指導を行い、品性のある生徒を育成する。	3.4 3.1 3.2 3.4 3.2 3.2	学校行事への取り組みに熱心な生徒が多い 既存の取り組みだけでなく、新しいことにもチャレンジさせたい。
(2)学力の向上	・真理と正義を求め、一意学道に精進する態度を養う。 ・すぐれた知性と実践力を養い、積極・創造の気魄を振起する。	・入学後の導入をスムーズにし、基礎学力の向上を図る。 ・学習意欲を高める授業法を探索し、授業の質の向上を目指す。	①導入期の指導を計画的に実践し、高校生活へのスムーズな移行を実現し、基礎学力の向上を図る ②公開授業や研究授業を実施して教員の指導力向上を図る。 ③進路実現100%を目指す	3.1 3.1 3.0 3.5 3.4 3.4 3.4 3.5 3.0	家庭学習時間の増加につながる導入期の指導を実施したい。 ICT活用にて特化した公開授業を企画、教科を超えた研修が実施できた。同一日開催について再検討したい。
(3)健康や体力	健康で明朗、品位ある生徒の育成		①部活動を奨励し、生徒が部活動に参加することを通して、明るく、たくましい心身を培う。 ②行動体力を高めるとともに、防衛体力をつけ、病気やケガに強い身体作りを行う。	3.6 3.2 3.2 3.2 3.1 3.1	部活動の在り方が変化していく中、どの部活も活気ある様子で、生徒の体力向上だけでなく、人間形成にも貢献しているようである。この先も授業、部活動が新型コロナの影響を受けることが考えられるが、その中で活動方法を工夫していきたい。

